

●イタセンバラ生息池周囲の通路確保の除草作業実施 5 月 2 日 大釜太田

1 月に打ち合わせ会議を実施大変有意義な内容で豊かな取り組みになりました。続いて生き物調査が摂南大学生や京都大学生によって調査が行われました。そして誰もが予想しなかった新型コロナウイルスの流行で外出自粛、パンデミックスとなって、感染防止のための三密が強調され、あらゆる活動が自粛となり、4 月度の調査活動はできなくなりました。しかし生息可能な池周辺の整備のための草刈りを 4 月に実行しました。そして 5 月 2 日に周遊道路の確保のために通路の草刈りを実行しました。カラシナがものすごい勢いで繁茂し、人の背丈をはるかに超えるまでに伸びていました。

●レンリソウ保全のための抜草と除草作業 5 月 3 日 5 人

桜が早く咲きはじめたので温かくなるのが早いものと思っており、きっとレンリソウも生育が例年よりも大きくなっているものと計算していました。

別の生育地では 4 月 25 日には小さな苗 6 本を発見したとのニュースがあり、予想通りと思ったのですが、5 月 3 日に現地を確認すると里山の会一番のレンリソウに詳しい森島さんがこの地では難しいと発見に苦労をされていました。予想では一面に咲きそろっていてもおかしくない頃だったのです。昨年も一昨年も 3 日には多くの花が咲いていました。ところが今年は予想に反して小さく、全員がこのあたりという場所をくまなく探してやっと 20 本程度を発見できるという状態でした。何か気象に大きな変化があるのではないのでしょうか

●桜の今年の開花は例年に比べて 10 日早かった所がありました。4 月になれば散ってなくなるのではないかと思いましたが、何と温かさが長続きせず寒気が何度も南下してきて 4 月 13 日まで咲き続けていました。京田辺市の坂川堤での出来事でした。会員各位のご近所ではいかがでしたでしょうか。開花のニュースは随分と話題になりますが散り終わりや咲き終わりなどあまり話題になりませんが、今年は随分と咲き続けてくれました。

●イヌナズナ生育地 700 m²除草 5 月 5 日 太田大釜有田

5 月になりますといよいよ本格的な除草作業の季節となります。田んぼでは田植え前の畔草刈りが活発で刈払い機のエンジン音が響き亘ります。苗代準備が始まってきます。里山の会では管理地の北の端がイヌナズナの生育地で 3 月には咲き出し、5 月には世代変わりがはじまっていますので一番の除草地となります。前日にレンリソウ地域を点検除草し、6 日にはイヌナズナ地域を除草していただきました。例年だと 1 台のハンマーモアの稼働なのですが、最新の新品を追加して 2 台での運転になりますので大変能率が上がります。やはり 2 台での作業だと元気が出て 1 台の負担が少なくなり、能率が上がるようです。一人よりも二人のほうが良いとよく言われてきましたが、その通りだと思います。

●オオバクサフジ生育地春の除草作業 5 月 6 日 太田大釜

管理地の最上流部はオオバクサフジの生息地になります。ここはほとんど猪以外は入らないだろうと思われる場所です。しかしこの土地はどこよりもセイタカヨシが大繁茂するところで秋の除草作業では最も苦勞させられる場所なのです。それにクズがまといつているので始末に手を焼いているところです。随分と刈り取る時期を検討して工夫をしているのですが、最も手を焼くところのナンバー1 です。今年はいち早く手を付けていただきました。昨年の教訓を生かして希少種の保護のために工夫を凝らしたいと思っています。

●近畿建設協会より活動交付金支給が決定

これまで京都府の交響プロジェクト事業としてご理解を得て2年連続で開催することが出来ました。2020年度は建設協会の助成金申請を行って実施しようと申請をいたしましたところ、見事に当選させていただきました。一部は人件費にも利用できるという内容が魅力的です。これまでよりはゆとりのある計画が実行できると考えられます。ありがたいことと思います。昨年以上のご参加をいただけるよう、内容にもさらに工夫を凝らして取り組んでいきたいものです。

●会誌 48号印刷製本発送 5月4日13人が5時まで頑張ってくださいました。

原稿の集まりがいつもより出足が悪く中間編集では100頁に及ばないのではないかという状況でした。史上最悪を覚悟しました。こうした状況を素直に伝えたところ、平均的な分量となり最悪記録を塗り替えることなく収めることになり、145頁になったのです。胸をほっとなでおろしました。しかし、丁寧な取り組みにできずあちこちにほころびが目立つ仕上がりになってしまいました。ご寄稿いただきました皆様には意のあるところが応えられずご迷惑をおかけしています。次号にて修正させていただきます。ご了解いただきますようお願いいたします。

●ボランティア保険に加入しました。除草作業や調査活動それに里山農園活動にご参加いただいている皆さんには社会福祉協議会のお世話をいただいている保険に加入させていただきました。その他一日保険などには別途必要な場合にはその都度加入することになります。例年ご協力いただいている皆様にはさらに今年もよろしくお願い申し上げます

●玉水浜右岸の蛇籠大きな影響力発揮 現在水中に埋没 修復補強

竹蛇籠を製造し設置したのが2015年で早くも4年を数えます。この間幾度も冠水を乗り越えて大きな働きを果たしてきました。それが近ごろ流量が少なくなっても水中に没するようになってきました。いよいよ予定していた5年目を迎えて耐用年数に近づいてきたのではないかと思います。早々に修復改修それとも新設などの対策が必要ではないでしょうかできれば今年秋までに形を整えられればと考えています。

●伝統的河川工法による河川土砂管理について報告を十数回にわたってお知らせします。竹門康弘先生提供

2《研究目的》3《F S研究の内容と期待される成果の概要》

木津川下流では河川事業の一環として竹蛇籠水制設置や聖牛の設置が試験的に設置されている。本F S研究では、これらの竹蛇籠水制群や聖牛の上下流域の区間スケールの河床地形と伝統的河川工物の近傍における微細な地形変化について現地調査によって調べるとともに河床変動計算を用いた浸食堆積過程の再現研究を行う。さらに、これらの範囲に生息する魚類と底生動物の生息状況を現地調査し、地形変化との対比関係を分析する、これらの調査研究によって、伝統的河川工法が河道内の物理環境や生物環境に及ぼす影響に明らかにできることが期待できる。

このF S研究から一般研究に移行することを想定した場合の研究内容と期待される成果の概要》F S研究で得られた知見を基に、木津川下流の他の地点での応用を目指す。木津川下流域において伝統的河川工法の利用による効果が期待できる地点を予測するとともに、個々の場所特性に応じた利用方法について検討する。一般研究の実施により、伝統的河川工法の場所条件の違いによる効果測定ができると期待できる。また、既存の竹蛇籠や聖牛についても、経年的な変化についてモニタリング調査を継続することによって、より長い時間スケールでの知見の集積が期待できる。